

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyoukai.com

http://yuaiyoukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

植林活動実施報告

友愛植林訪中団第二〇次派遣達成

第十九次福建省アモイ市第二期

第二〇次湖北省孝感市第一期

地域に適した樹木の選択 広がる緑が日中友好の証

日本友愛協会は、日中緑化交流基金より助成金を受け、平成十二年度より植林訪中団を派遣し、植林活動を続けている。本年度は、事業継続一〇年を迎え、第一次訪中団植林実施箇所を始め、数力所を視察、その成果を確認した。また、二月に派遣した訪中団は第二〇次となり、中国側カウンターパートである全国中華青年連合会より、事業継続に対する感謝状を贈られた。継続する大切さ、実行する意義をこの植林活動は証明している。今号の「友愛」では、第十九次アモイ市同案区、第二十次孝感市の植林訪中の実際を併せて報告し、今後への参加の誘いとしたい。

第十九次植林訪中同行記

事務局次長 井之輪 豪

アモイを訪れるのは、平成二十二年三月以来である。成二十二年九月月ぶりになる。昨年暮れ十二月中旬という冬の真つ只中にアモイを訪れた。

訪中前には緯度的には沖縄より南、台湾島の対岸に位置するアモイであるから寒さもそれなりであろうと私はタカをくくっていた。しかし、アモイ空港に到着してみると昨年三月に訪れたときのような湿った空気ではなくカラッ風が吹いており、寒さも日本と同様厳しいものであった。中国中



同安区第二期植林現場の現状。赤土の露出した斜面が目立つ。このふもとを高速道路が走る計画があり、自然保護、環境整備、生活道路確保と今回の植林は様々な効果が期待されている。

部の大陸性気候の影響を随分と受けているのだろ。う。私は、南に行くほど暖かくなるという稚拙な考えをしていたことを恥ずかしく思った。

さて、今回の植林プロジェクトは一昨年までと同様にアモイ市内で遂行するものではあるが、「二〇一一年国際森林年」登録事業として同安区にて行われる第二期事業にあたる。

植林地は、同安区に位置する安溪であり鉄観音茶の発祥の地である。安溪では住民二千人のうち実に半分の住民がお茶の栽培に関わるといふ。安溪まではアモ



銘石の産地でもあるところから、立派な石碑が建立された。

青年連合会の王常任委員の

説明によると、二〇年前ま

では住民が生活のため野放

図に木々を伐採してきたこ

とから、この一帯はハゲ山

だったという。そのハゲ山

を現地行政が、地道に雑木

林へと再生させてきたのだ。

一方で、近年はアモイ

市街地への交通の便を図る

ために高速道路を敷設し

た。充分な環境アセスメン

トを行い環境に最大限配慮

した開発事業を行なってい

るようである。友愛の今回

の植林プロジェクトも、こ

れらの事業の一端を担うこ

アモイ市青年連合会から贈られた参

加証書は、独自の洒落たデザイン

になる。

植樹作業では、例年通り

現地ボランティア約一五〇

名の協力を得て約五十四ハ

クタールの山地に山杜英・

二〇一一年国際森林年の登録事業として行われた今回のプロジェクト。

参加の青年達は、胸にシンボルのバッヂを着けてポスターを手に笑顔で

香樟・楓香等計六樹種約六

千七百本余りの苗木を植樹

する。起工式において現地

の報道機関からの取材も多

数受け、友愛植林事業が現

地元の青年達も参加して、大きな

苗を植樹した。生育が楽しみだ

花の咲く樹木を植林。環境保護、

景観保持など多くの利点がある

アモイ市同安区緑化事業は、市内

の交通環境整備にも役立っている

地元メディアの関心も高く、多く

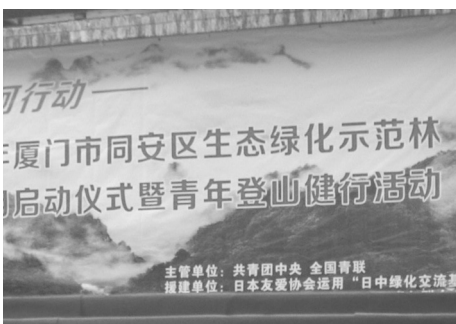
の報道関係者がインタビュ

ポスターを手に、賑やかな地元参

加青年達。全員ボランティアだ



花の咲く樹木を植林。環境保護、景観保持など多くの利点がある



地元メディアの関心も高く、多くの報道関係者がインタビュー



二〇一一年国際森林年の登録事業として行われた今回のプロジェクト。参加の青年達は、胸にシンボルのバッヂを着けてポスターを手に笑顔で

友愛時評

十年前のこの欄に「私の様に携帯を持たない者は」と書いたが、今や編集子も携帯を持たされている。家人が心配しているのだが、ほとんど使う事が無い、宝の持ち腐れである。▼その時同時に「活字離れ」を嘆く文を書いたのだが、今日ではIT関連の発達で、書籍まで携帯で読めるようになった。便利といえば便利なのかも知れないが、神田の古本屋で、この本の前の持ち主は…と想像たくましく、思いを巡らせて本を探すことを趣味とする編集子にとって、紙媒体が廃れて行くのは寂しいことである。▼ITの発達は便利さを生むが、反面複雑な犯罪、会話の無い人間関係など負の部分も生まれる。それは道具が悪い訳ではなく、使っている人間に問題がある。▼原子力発電も同様に、原発そのものが悪ではなく、危機管理を含め、使っている人間の問題である。今一度、人間として、原発を含め、様々な文明の利器に向き合って、本来の役目から考え直さなくてはいけない。▼あの大震災から一年を経て、現状を見ている今が、その機会といえる。被災された方々の暮らしが、人間としての生活には何が必要かを教えてくれる。▼人間として傲慢に求めてきた自由、正に「行き過ぎた自由」が現代社会の問題を生んでいる。「真の自由とは、友愛革命によって全人類を兄弟姉妹とみるようになることである」(鳩山一郎訳 クーデンホーフ・カレルギー「自由と人生」より)。友愛の役割はまだまだ終わらない。

植林活動実施場所

躍動感溢れる中国

二〇二二日本青少年訪中代表団第二陣 友好団体分団参加

「二十一世紀東アジア青少年大交流計画(日中二十一世紀交流事業)」の一環として毎年、外務省・日中友好会館が募集する、日中青少年交流訪中団に、本協会からの推薦で、大野裕二さん(鳩山友愛塾第一期修了生)が参加した。期間は平成二十三年十一月二三日から二九日までの七日間。

この度その感想を『友愛』に寄せてくださったので、ここに全文を紹介し、報告記事とします。



大野裕二さん

北京に着いた時、以前に感じた情動が再び私の心の奥に沸き上がった。前回訪中したのは三年前になる。上海、浙江省に滞在した際、言葉では表現できないような、莫大なパワーを感じた。今回も同様に、いやそれ以上に躍動感に溢れた雰囲気、圧倒された。それがまさに急成長している現在の中国の姿なのであろう。

かつて日本には高度成長期と言われる時代があった。私自身も経験して、様々な名所や公共施設などをめぐることができ、多くの貴重な体験をしたが、三日目に北京で行われた共青团の幹部の方々との意見交換は印象的であった。

自由経済の導入後に生ま

れ育った世代の人々が、今後共産党の幹部となり中国政府の舵取りをしていく上で、共産党の掲げる理想と中国社会における現実の問題について、彼らの目にはどう映っているのか、どのように捉えているのかという点に大変興味があった。

返答は表向きの建前論ではないが、言葉の端々からは生まれた時から資本主義に慣れ親しんできた彼らの姿が垣間見えた。同時に、実際その問題に対しての当事者意識は公に報道されるほど、彼らは持ち合わせていないようだった。

これまで政府に携わる若年層の方々と話をする機会はなく、今回の意見交換は彼らの意識を肌で感じることで、私にとって多大

な収穫であり、貴重な経験になった。今回の訪中で中国の広さと力強さ、そこに秘められた可能性を感じたが、衛生面ではまだまだ課題はあるようだ。文化的なものか成熟度の問題なのか明確な要因は不明だが、非常に多いゴミなど環境面の問題が三都市すべてに共通していた。経済の急速な発展が環境の汚染や破壊という深刻な問題を表面化させ、同時

に都市ゴミや廃棄物処理の問題を引き起こしているのだろう。かつて急成長を遂げた日本も少なからず直面した問題でもあるが、今や日本はゴミの年間発生量は微増に押さえられている。しかし、財政、医療、教育問題、その他、昨年の震災により浮き彫りになった課題も多く、問題は尽きない。このような混沌とした世の中において、必要なものは何であろうか。高度成長

軽井沢友愛山荘 受付開始

新しいパンフレットできました！

友愛関連資料も充実 テニスコートも整備完了

軽井沢友愛山荘は、四月一日より二四年度の営業を開始いたします。(三月一日より予約受付中)本年度、浴室、浴槽をはじめとする大改修が行われ、バリアフリーになった

お風呂をはじめ、好評を戴いている、新装なった友愛山荘が、皆様のお越しをお待ち申し上げております。法人移行に伴い、ご利用案内のパンフレットが一新されました。併せて、知人、

友人の方々にご紹介いただくためのご案内カードも作成いたしました。是非ご利用いただき、多くの方に利用いただけますよう、配付にご協力お願い申し上げます。詳しくは事務局まで

シューマン『詩人の恋』に懸ける想い

友愛ドイツ歌曲コンクール一位受賞
三月十二日 ウィーンでコンサート
国際交流派遣事業 姉妹団体OJABの協力を得て実施

R. シューマン『詩人の恋』に寄せて

内之倉 勝哉

この度、貴協会の国際交流派遣事業における派遣員として、ウィーンのベーゼンドルファーホールにて、『詩人の恋』を歌わせていただく機会をいただきました

たことに心より感謝申し上げます。

初めて『詩人の恋』を聴いたときの感動は、今でも忘れることができません。

この作品を舞台で演奏することができたらどんなに素晴らしいかという思いに駆られました。その思いは今になっても変わること

OJAB LIEDER & KAMMERMUSIK ABEND 2012

MONTAG, 12. MÄRZ 2012
19.30 UHR
MOZARTHAUS VIENNA
BÖSENDORFER SAAL
DOMGASSE 5, 1010 WIEN

BENEFIZKONZERT
zusammen
"Straßenkinder in Ouagadougou"

Mit Werken von
Robert Schumann, Fernando Sor, Étienne Nitsch,
Günter Kieser, Giacomo Puccini und anderen.

Mitwirkende
Katsuya Uchinokura, Tenor
Milena Arsovska, Sopran
Ivan Petrovich, Gitarre
Pierin Getzner, Akkordeon
Greta Benini, Klavier

Der Eintritt ist frei!
Um Spenden für die OJAB-Ausbildungsprojekte
in Burkina Faso wird gebitten.
Spendenkonto: OJAB/FEZA
Konto Nr.: 50-02 519 105
Raiffeisenlandesbank NO-Wien (BLZ 32000)

Aufgrund der begrenzten Sitzplätze ist eine
Anmeldung unbedingt erforderlich.
Wir danken für Ihr Verständnis!
01 / 597 97 35 - 833 (OJAB-Zentrale)

www.ojab.at

軽井沢友愛山荘のご案内

●軽井沢駅より徒歩10分
●軽井沢駅西口より徒歩10分
●軽井沢駅南口より徒歩10分
●軽井沢駅北口より徒歩10分
●軽井沢駅東口より徒歩10分
●軽井沢駅西口より徒歩10分
●軽井沢駅南口より徒歩10分
●軽井沢駅北口より徒歩10分
●軽井沢駅東口より徒歩10分

〒118-0002
東京都文京区小塚1-10-13
TEL: 03-5664-0111 FAX: 03-5664-0115
http://yuaikyokai.com
e-mail: yuaikyokai@yuaikyokai.com

軽井沢の緑を表現した表紙、見やすく、解りやすくなった地図、イメージ新のパンフレット表紙(写真上)
2面~4面は、友愛山荘の豊かな緑、芝生を写真で表現。各部屋、施設も解りやすく写真でご案内しています(写真下)

ようこそ軽井沢友愛山荘へ

軽井沢の四季と友愛のぬくもりを

軽井沢友愛山荘は、みなさまの宿泊施設です。
宿泊、食事、自然体験学習などお気軽にご利用ください。
おぐつさのひとときをお過ごしください。

軽井沢の四季と友愛のぬくもりを

軽井沢友愛山荘は、みなさまの宿泊施設です。
宿泊、食事、自然体験学習などお気軽にご利用ください。
おぐつさのひとときをお過ごしください。

友愛婦人会だより

恒例「平成24年新春の集い」開催
タンゴ演奏で華やかに和やかに



タンゴの生演奏。懐かしい曲、心弾む曲が次々と演奏され、初春の盛り上がり演出していただきました

平成二十四年一月一日（火）快晴の日、恒例の友愛婦人会「新春の集い」が、目白の椿山荘にて開催されました。

鳩山安子会長はご欠席で、大変残念ではございましたが、まず始めに一同で会長のご健勝をお祈り申し上げました。

大塚支部宮崎ふさ子の司会により、開会、副会長種田英子が開会のご挨拶を申し上げました。続いて、副会長白石敏子より来賓のご紹介をいたしました。

文京区長成澤廣修様、文京区議会議長宮崎文雄様、



元文京区長煙山力様、日本友愛協会常務理事川手正一郎様、理事武田紀念男様、鳩山邦夫先生代理藤井雅義様、鳩山太郎様、論語講師定岡定子様、フラダンス講師井田幸子様と多くの来賓にご出席戴き、総勢七十余名の賑やかな会となりました。

東北地方では、大変な新年を迎えておられる現状のなか、復興元年として「絆」を深め、友愛の精神を基に、この一年を頑張りましょうと、来賓の皆様からご祝辞を戴き、私共友愛婦人会といたしましても、共に支えあいましょうとの思いを強く致しました。

副会長諏訪あさの発声で乾杯、新春を寿ぎました。

タンゴの生演奏で華やかに椿山荘自慢の新春フラン

元文京区長煙山力様、日本友愛協会常務理事川手正一郎様、理事武田紀念男様、鳩山邦夫先生代理藤井雅義様、鳩山太郎様、論語講師定岡定子様、フラダンス講師井田幸子様と多くの来賓にご出席戴き、総勢七十余名の賑やかな会となりました。

東北地方では、大変な新年を迎えておられる現状のなか、復興元年として「絆」を深め、友愛の精神を基に、この一年を頑張りましょうと、来賓の皆様からご祝辞を戴き、私共友愛婦人会といたしましても、共に支えあいましょうとの思いを強く致しました。

副会長諏訪あさの発声で乾杯、新春を寿ぎました。

タンゴの生演奏で華やかに椿山荘自慢の新春フラン

友愛ぽんだな

『立ち上がれ日本人』
マハティール・モハマド
加藤 暁子 著

自己を見る視点と自己を知る視点、同時に相手、また第三者を見る視点と知る視点が必要であるが、それは国家間においても言えることではなからうか。私達は自分のこと、この国のことを知っているようで知らない、また見えているようで見えていないという事もあるのではなからうか。

戦後長年に亘り、とかく自己否定や自虐的な論陣が多用され、戦後世代の少なからぬ日本人が疑う事もなくその論旨を受け入れていくように思えてならない。それは実は自分達の客観的な姿を知らない、偏った見方によるものではないかと、この一冊がこの書である。

本書は、マハティール・モハマド元マレーシア首相が、日本人に対する提言の形で著している。氏は一九八一年から二〇〇三年十月までマレーシア首相を務め、日本への訪問は五〇回を超え、日本を手本にしたルク・イスラト政策をとった親日派である。

日本や日本人を好意的に見ている国々は、私達が教育されたイメージと違って少なくない。マハティール氏は「今の日本では失業率が高く、国民が自信を失っているようです。しかし日本を再びいい国にするために、ぜひ頑張ってください。皆さんには勤勉であるという日本人の素質が根付いているのだから他国の言いな



この著書の初版は二〇〇三年で八年前である。現時点では様々な事実や背景の検証が進み、初版時点よりも多くの事実関係が解明されてきている。日清戦争、日露戦争から続く白人社会と有色人種との関係と、そこから派生した様々な力学、そしてその行きつく先として衝突し発生した大東亜戦争の真相が、公開資料と共に解明されてきたが、八年前の時点ですら時のマレーシアの首相がいかなる認識に立っていたかは広くアジアからの視点という意味で一考に値する。時のアジアの一国の指導者、マハティール氏の見解は、著書の中で教育やイスラム世界のテーマにも及び、その著書全体から伝わる日本への眼差しは、日本人の精神や自我の確立の重要性和アジア諸国や世界との共生についての主題である。

書評：木村 正治
（鳩山友愛塾一期修了生・日本友愛協会評議員選考委員）

『立ち上がれ日本人』
新潮新書版 一八八頁
価格：七四四円
マハティール・モハマド
一九二五年マレーシア北部ケダ州生まれ。エドワード七世医科大学卒。

「時事川柳 服部迪夫 作」
一 名古屋テレビ塔
リストラの波を乗り切るテレビ塔
一 初セリ最高額更新
寿司屋から経済学ぶお正月
一 大震災
復興の先が見えない一年後
一 公務員ランナー
大会を練習台にする凄さ
一 死刑問題
少年に風穴あける大法廷
一 名実ともに世界一
賞という賞を総なめ乙女たち
一 定年制の問題
六〇代おっかなビックリ玉手箱
一 伝統の初売り
仙台を満腹にする福袋

機関紙『友愛』原稿募集

皆様のご投稿をお待ちしております。内容は、ボランティア活動の報告、地域の名物紹介、季節のお便り等々、何でも結構です。ご自慢の写真も大歓迎です。皆様の『友愛』に奮ってご投稿ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。掲載ご希望の月締切：特に設けません。いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願い致します。要領：手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。写真：紙焼き（カラー・白黒）・デジカメデータどちらでも。

編集後記

◆一月下旬頃から、なんとなく嘔（くさめ）が多くなり涙や涙が出、また風邪かと軽く考え、時々風邪薬を飲んだ。薬を飲むと一寸鎮まるが、毎日に嘔や咳が酷く喉も痛くなり、その上顔まで腫れ、どうした事かと医者に行つたところ、花粉症との診断。田舎者で、そんなものには絶対ならないと自負していたのに。とうとう私もそんな体質になったかと、恥ずかしく情けなく思う。嘔と涙の花見とはいと哀れ、すっきりするのはいつの日か。（K）

◆3・11から一年を迎える。大震災から一ヶ月余り経つた頃、何かお役に立てることはないかと仙台空港を起点に、海岸線を北上し大船渡市まで被災地を訪れた。報道映像から被害についてはある程度想定していた。しかし、現実の大津波の爪痕は想像を絶した。漁船がビルの上に乗上げて、何よりも視界の限り何もないことの衝撃が大きかった。勿論、瓦礫などは山積している。しかし、何も無いのだ。この衝撃は私だけでなくマスコミも感じていただろう。カメラを通してこの「何もなさ」を伝えることは至難だったのか。映像の限界を感じさせられた出来事だった。（GO）

◆植林で中国を訪れる度、担当してくださる羊さんと言葉について話をする。原因は、川手団長の挨拶に登場する難しい言い回し。おかげで諺・四字熟語での日中の違いなど興味深いことを知った。鬼に金棒は中国では、虎が翼を持つというそう。なるほど！知ることは楽しい。川手団長の挨拶は、全青連通訳泣かせベスト3にランクイン。（も）